

すず き みち お
鈴木道雄

すべてを忘れて仕事をした人
— 独創のサロン織機の開発 —



鈴木道雄 (1887 ~ 1982)

出典：『鈴木自動車工業(株)四十年史』

■生い立ち

鈴木道雄は、1887年2月18日、静岡県浜名郡芳川村字鼠野(現浜松市南区)の農家の次男として生まれた。1901年、鈴木道雄14歳の時に棟梁今村幸太郎に弟子入りし大工職人となった。「楽は苦のたね、苦は楽のたね」と、他人よりも早く起き、他人よりも多く働け、との祖父の訓戒を胸に、厳格な親方の下で大工仕事の技を学び、早くから一人前の建築技術を習得した。

1904年の日露戦争勃発は、鈴木道雄に転機をもたらした。戦争のため建築の仕事が減り、親方の今村は持ち前の器用さから足踏織機の注文を引き受け、その製作に転業したのである。鈴木も当然ながら織機製作の知識と技術を学ぶ機会を得た。1908年、徒弟期間が満了となり、鈴木は親方のもとを辞した。この頃、戦争後の満州で足踏織機の需要が増大していることを知り、鈴木は独力で織機製作を決意した。

■鈴木式織機製作所の設立

鈴木道雄は、伯父の世話で、1908(明治41)年、浜名郡天神町村上中島(現浜松市中区)に土地を借り、工場を建てて足踏織機の製作を始めた。自作の1号機は母に献じ、大いに喜ばれたという。1909年、鈴木は、鈴木式織機製作所の看板を掲げて本格的に織機の製作を開始した。当時、動力織機がすでに世に出ているが、農家の副業から発展した中小の機織り工場では、足踏織機が全盛の時代であった。鈴木は足踏織機は一挺杼(杼がひとつ)であったため、同業者のものと同じで、特色のない製品であり、無地物を織るものであった。そこで、鈴木は、縞物が織れるように杼を2本使う仕組みを苦心の末に発明した。杼箱を上下2段重ねにして、上下機構により、2種類の緯糸を使うことのできる二挺杼足踏織機を完成させた。この発明は1912年に実用新案第26199号として登録された。鈴木式織機の飛躍の第一歩となる革新技術であった。その後も、鈴木は織機の発明改良に取り組み、次々に新装置を発明、鈴木が生涯に取得した特許は120件余である。

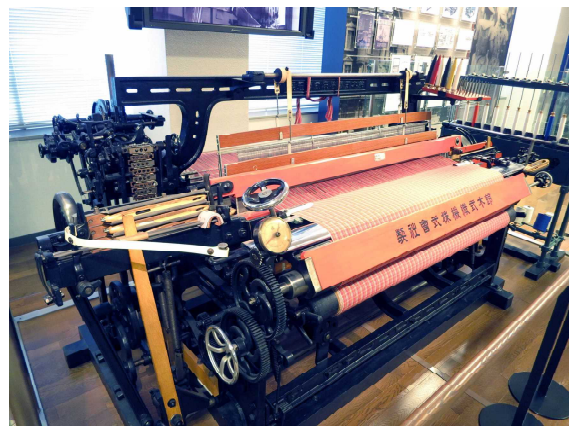
1920(大正9)年、個人経営であった鈴木式織機製作所を資本金50万円の鈴木式織機株式会社に改組し、鈴木道雄は代表取締役社長に就任した。1926年に、本社を浜松市相生町に移転した。戦後の恐慌下ではあったものの、特色ある鈴木式織機への影響は比較的小なく、業績は順調に推移した。

1929(昭和4)年、鈴木式織機は複雑な格子縞を織ることのできる片側4挺杼のサロン織機を出した。「サロン」(sarong)とは、インドネシア等の民族衣裳で体に巻きつける布のことをいい、それを織るのに適した織機であったことからサロン織機と名づけた。

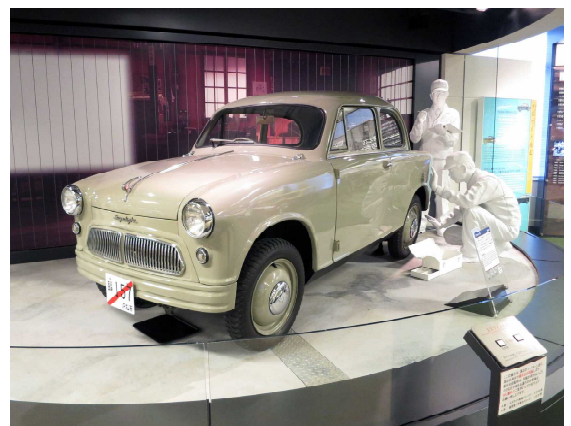
■自動車工業への転換

織機製造だけを続けていてはいずれ事業に限界がくる、そう危惧した鈴木道雄は自動車の製造に踏み出すことを決意する。「将来は必ず四輪車の時代がくる」、そう確信していた鈴木は、自動車に先駆けてオートバイの開発に着手した。戦争でいったん研究は中断するものの、1952年、自転車補助エンジン付きの「パワーフリー号」を、続いてオートバイ「コレダ号」を発売した。

1954年には社名を鈴木自動車工業株式会社と改め、翌年に国産初の軽四輪乗用車「スズライト」を発表し、軽自動車時代の先鞭をつけた。四輪車で2サイクルエンジンを搭載したのはスズライトが初めてなら、エンジンを車の前に配置するとともに前輪駆動で車を走らせるFF方式をとったのもスズライトが最初であった。スズライトは鈴木の子の夢の集大成であった。



片側四挺杼のサロン織機 スズキ歴史館蔵



国産初の軽自動車「スズライト」 スズキ歴史館蔵

(石田正治)